第51回特別展

ー東洋の近代を求めてー

日本画壇の巨匠横山大観・菱田春草展

横山大観（1868－1958）と菱田春草（1874－1911）は、東京美術学校（現東京芸術大学）で岡倉天心（1863－1913）に師事。日本画に、西洋画の要素を取り入れた「無線描法」を試みるなど画壇に新風を吹き込んだ。当初は全く世間に受け入れられず、「朦朧体」と厳しく批判されたが、その後、1907年ごろから色彩と形態のハーモニーが美しい独特の画風と評価される。

さらに、春草は、日本画に大和絵の装飾美を取り入れるなど近代日本画に大きな影響を与えた。一方大観は日本美術院の再興に尽力、第1回の文化勲章者に選ばれた。数多くの富士山図に象徴されるように、生涯をかけて東洋的な思想と西洋的写実との融合を追求し続けた。

本展は、日本画の近代化に正面から取組み、常に前進を続けた横山大観と菱田春草の二人にスポットをあて、画壇の先頭に立って日本画の革新にまい進した二人の広範多努な画業を紹介した。

会期／平成6年10月8日（土）～11月13日（日）

会場／特別展示室1、南蛮美術館室

主催／神戸市立博物館、神戸新聞社

後援／兵庫県、神戸市、兵庫県教育委員会、サンテレビジョン、ラジオ関西、Kiss－FM

協賛／（財）兵庫銀行文化振興財団

開催日数／32日間

入館者数／34，684人（1，084人／日）

出品件数／126点